

授業料等不徴収協定に基づく派遣交換終了報告書

所属(本学)	イノベーションマネジメント研究科 技術経営専攻		
現在の学年	修士1年		
留学先国	スイス連邦	留学先大学	チューリッヒ大学
留学期間	2014年9月1日～ 2015年1月31日		

① 留学先大学の概略

スイス連邦のチューリッヒにある総合大学です。隣にチューリッヒ工科大学があります。

② 留学前の準備

2016年度卒業の学生から就活開始時期がそれまでから大幅に遅れ4月スタートとなったため、修士一年の秋から一学期間の留学が可能になりました。4月からの春学期に日本での院の卒業単位をなるべくたくさん集め、9月から1月まで留学、帰国後の2月から就活準備、就活本番へ、という計画のもと留学をしました。

チューリッヒではWOKOと呼ばれる学生向けの住宅斡旋の団体があります。また学期の直前に2週間のドイツ語集中講座が開かれるのでそこで基本的なドイツ語を学ぶことができます。日本人はビザが必要ありませんが、はじめの入国の際に入国審査の人が日本人のビザ免除のことを知らないことがあるのでそこは注意が必要です。

③ 留学中の勉学・研究

授業登録はセメスター開始後2週間以内にしなければなりません。ここで登録し忘れると、授業の単位申請は不可能になります。試験期間が12月中盤から1月末までで、履修結果は経済学部の場合は2月の中旬にでます。

私が履修した科目は以下の通りです。

German intensive course

Ordinary differential equation

Fundamental probability theory

Empirical financial engineering

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

スイスの大学生はASVZと呼ばれる大学と提携しているスポーツイベント企画団体のあらゆるイベントに参加することが出来ます。私の場合は、フットサルとエクササイズプログラムに参加していました。すべて無料です。

また、スイスはヨーロッパの中央に位置しており、ヨーロッパのあらゆる地域への旅行が容易に出来ました。私は、ミラノ、ミュンヘン、パリ、アムステルダムなどに旅行に行きました。またスイス国内にもきれいな街がたくさんあり、とくに街の教会の展望台から見るベルンの景色は素晴らしいものでした。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学で私が一番成長したと思ったのは、留学の終盤頃になって英語の様々な訛りの区別がつくようになってきたことです。スイスの大学には自分のほかにもたくさんの留学生がおり、あらゆる国籍の学生たちが主に英語で会話をしています。私はもともとあまり英語に自信がないということもあり、その中でそれぞれの国の留学生が話す英語を聞き取るのにはじめは大変苦労しました。しかし、留學生活が進むにつれて、この人はこのあたりの出身でこんな感じのリズムで英語を話すんだな、というのがだんだんとわかるようになりコミュニケーションが徐々に円滑にすることができたと思います。これが今回の留学で得た一番の収穫でした。

⑥ 留学費用

今回の募集からJASSOからの給付型留学生向け奨学金を通常の日本での生活のために支給されている貸与型奨学金と併用できるようになりました。これに加えて、スイスのHeyning Roelli Foundationからの奨学金を合わせて今回の留学費用としました。したがって、留学のために新しく自分でまとめたお金を捻出する必要は今回はありませんでした。

⑦ 留学先での住居

学生寮はありません。WOKOと呼ばれる学生向け住宅斡旋団体に住宅を割り当てを希望するか、自分でルームシェアあるいはホームステイを見つけなければいけません。家賃は周りに聞くと限りでは学生に限り相場450-700CHFくらいだと思います。

⑧ 留学先での語学状況

すべて英語の講義を選択することはできますが、ドイツ語でしか受けられない内容の講義も多々あります。留学前のトフルは67点でしたが、これではまったく足りません。初めの2か月ほどは事務手続きにも苦労しました。

⑨ 単位認定、在学期間

単位認定はチューリッヒ大学の成績開示後に行う予定です。在学延長はしません。

⑩ 就職活動

就活は帰国後にすべて行うつもりです。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

物価がとても高いので、基本的に外食で食事を済ませることは無理でした。自炊が、大学の学食で節約する必要がありました。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

実際に行ってみると自分の至らない点がたくさん見つかりますが、それも含めて学生生活の間をぬって短期、あるいは長期に留学をする価値は十分あると思います。